

令和 5 年度学校評価報告書

令和 6 年 3 月 28 日

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川永嶺高等学校長
今 井 健 晴

次のとおり令和 5 年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 1 生徒一人ひとりが活躍し、成長することを追求して、質の高い教育活動を展開する。

2 保護者や地域住民に愛され信頼される、生徒が誇りに思える学校づくりを推進する。

3 教職員が目標を共有し、役割を果たし、チームでスクール・ミッションを具現化する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・授業公開週間や観点別評価の校内研修を通して、個々の授業改善・観点別評価の充実が必要である。	・ICT機器のスキルアップし、教職員の資質向上が必要である。
改善方策	・授業参観と校内研修等で「指導・評価の一体化」を推進する取組の充実を図る。 ・ICT機器を積極的に活用し、授業改善を図り、生徒の学習意欲と学力の向上を図る。	
生徒指導関係	・生徒指導の充実に向け、教職員が生徒と積極的に関わる場面を意図的に持つことが必要である。 ・生徒会行事で、生徒が活躍できる場面を増やすように工夫・改善する必要がある。	・生徒会行事を生徒の活躍できる機会を増やすことは、いじめを未然に防止する観点においても有効な取組であると考ええる。 ・生徒指導の「身だしなみ指導」と進路指導の「推薦指導」の連携も有効的な方策である。
改善方策	・生徒会行事を点検し、工夫・改善を図り行事の充実を図る。 ・進路指導と生徒指導を連携させた、規律ある学校生活の充実を図る。 ・引き続き職員と生徒間の声かけを通じて、コミュニケーションの充実を図る。	
進路指導関係	・進路指導の目標が決まっていない生徒への方策として、入学時からの継続的かつ組織的な進路指導をさらに充実させる必要がある。	・外部講師を活用した「進路セミナー」等の取組は、生徒にとって大きな成果があると考ええる。
改善方策	・間口減に対応した「キャリア・プロジェクト（高校3年間を見通したキャリア教育）」の見直しを行い、持続的な指導ができる体制の充実を図る。	
健康・安全指導	・生徒の自主性・主体性を育みながら、心と体の健康も含めた組織的な体制で対応できた。	・各種感染症対策やアレルギーへの対応等、個々の生徒情報を的確に把握し、組織的な安全対策の充実が必要がある。
改善方策	・特別支援委員会を中心に、スクールカウンセラーの教育相談等、生徒個々に対応した組織的な支援体制の充実を図る。 ・衛生委員会を中心にさらなる職場の衛生労働環境の改善と充実を図る。	
信頼される学校づくり	・ホームページを始めSNSを活用した発信に努めた。 ・中学校訪問を活用し、本校の教育活動について理解を広めることができた。	・ホームページの適宜更新や学校の教育活動が地域住民や保護者にわかりやすく伝わる文章表現等も必要である。
改善方策	・ホームページやSNS等で迅速に情報発信できる、組織的な体制の充実を図る。	
組織運営	・教職員数の減少に対応した組織体制の見直しを行い、業務の精選を図った。	・管理職を中心に、日常的なコミュニケーションを重視した組織運営が重要である。
改善方策	・日常業務のICT化をはじめ、教育のDXに向けた取組の充実を図る。 ・部活動の精選と部活動指導員の活用を行い、教職員の「働き方改革」の推進を図る。 ・報告・連絡・相談を緊密にし、組織として統一性・共通認識の上で学校運営の推進を図る。	

公表方法	学校ホームページ、学校評議員会にて公表する
------	-----------------------